



甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

令和7年2月3日（月）作成

校長 本田 司

記述者 職名 教頭 長田 健一

学校教育目標 楽しい学校（楽校）の創造ーやる気 こん気 げん気ー

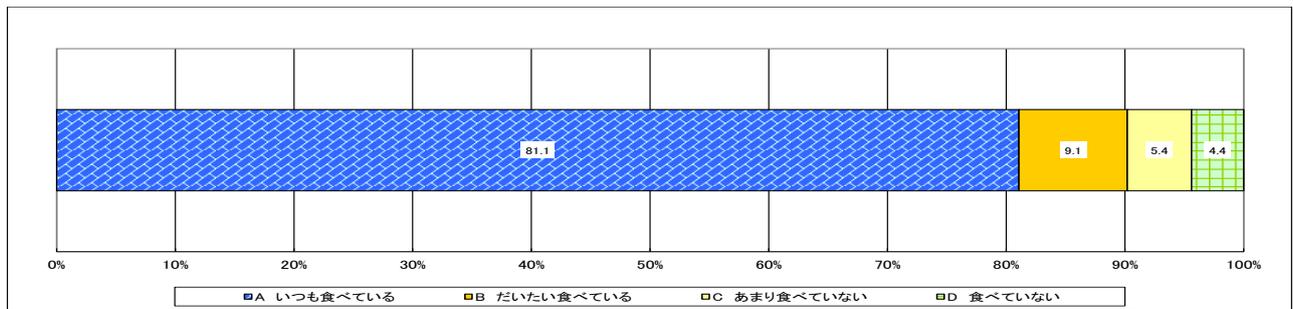
学校経営の基本方針

- ・「生きる力」をはぐくむ，教育課程の編成と実施
- ・「確かな力」をはぐくむ，子供主体の授業の創造
- ・思いやりの心や情操を培い，「豊かな心」を育む，居心地のよい学校・学級（集団）の創造
- ・たくましく生きるための「健康な体」を育む，健康・安全な生活と環境の創造
- ・「信頼される開かれた学校づくり」の推進

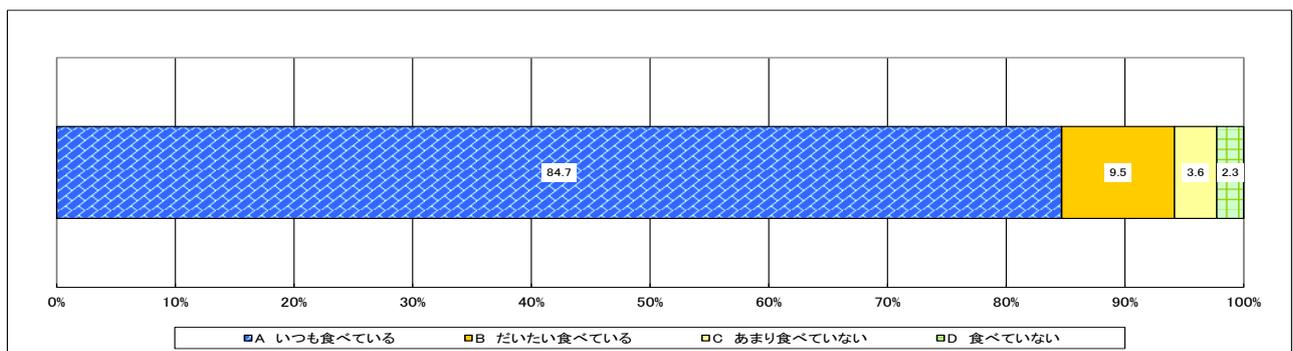
1 全体評価

- 自己評価の結果は，A B評価が高い水準にあるといえる。
- ・全39問中，38の設問で肯定的評価（A・B）が85%以上となった。今年度も教育活動全体的に高い自己評価の数値となった。中でも「ICTの効果的な活用」のA B評価が95%以上と高くなっていることから，ICTの「効果的な活用」に対して研修や授業での積極的活用に取り組んだ成果が表れていると考える。
- 児童アンケートの結果では，学習状況で肯定的な結果が多く見られるが，他の設問に課題が見られる。
- ・昨年度は，本校の課題ともなっている「朝ご飯を食べて登校しているか。」の児童アンケートのC D評価が6.2%となり，一昨年の11.3%から減少傾向にあったが，今年度はC D評価が9.8%で再び増加傾向にある。（本校C D評価の人数/29名，甲斐市全体のC D評価は5.9%）望ましい生活習慣や食育の観点からも摂取率100%を目指したい。

竜王南小全体



甲斐市全体（小学校）



<ul style="list-style-type: none"> ・「授業が楽しいか」「先生はよく勉強を教えてくれるか」「国語・算数の授業内容はわかるか」のA・B評価の割合が、今年度も甲斐市全体の割合に比べてとても高くなっている。理由として、学習における授業者と児童の信頼関係が良好であることや授業準備としての教材研究の充実を示していると考え。 ・昨年度は家での学習時間の肯定的評価の割合が高い結果（88%）となっていたが、今年度は79%と約10ポイント減少した。家庭学習強化週間や日々の自主学習等の取り組みの強化と家庭での協力を呼びかけていく必要がある。 ・「夢や希望を持っているか。」のA・B評価が86%（甲斐市全体85.6%）である。他の項目の多数はA・B評価が市全体より高い数値になっているのに対し、この項目についてはほぼ同値である。<u>CD評価の児童への手立てを考えていきたい。</u> <p>○保護者アンケートの結果では、肯定的評価が90%以上の設問が26問中9問、80%以上となると15問となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業参観や開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」ではA・B評価が99.4%と高く、授業参観や開放日などが、保護者にとって子どもの様子を知る貴重な機会となっていることがわかる。
--

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

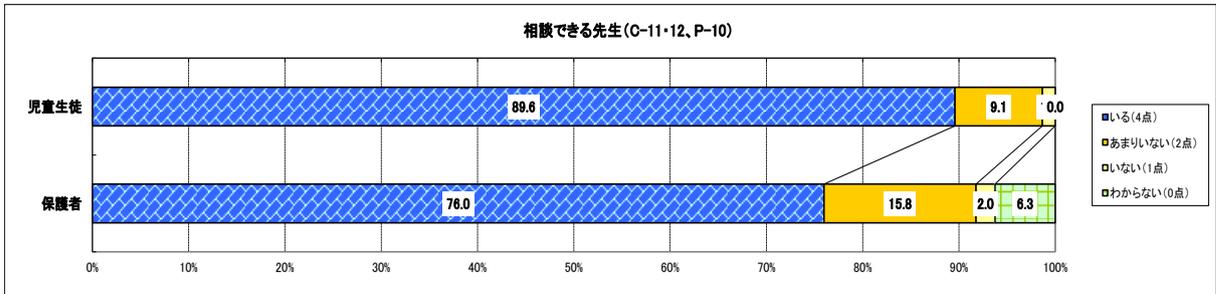
達成状況	<p>○学校教育目標・学校経営についての自己評価5設問中すべてが、肯定的評価（A・B）100%となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2 学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」についてはA評価が75.8%と高水準となっている。学年主任が中心になって、教育目標や重点目標を踏まえた学年経営を行っていることがわかる。 反面、「4 P D C Aサイクルを意識して教育活動を行っている。」については、A評価が42.4%と他の項目より数値は下回っている。（A・B評価は100%）
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長より、年度始めや学期始めの職員会議、終礼や校内研究会等で学校経営方針に基づいた確認を常に行い、教頭が補佐することで、組織が常にP D C Aサイクルの共通認識をもって教育活動に取り組めるようにしていく。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況	<p>○8設問中7設間で肯定的評価（A・B）が100%となったが、成果と課題として次の項目が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1 危機管理マニュアルを理解している。」のA・B評価合計は100%となった。一番重要である児童の健康安全を守るため、年度始めから周知徹底を行ったことや避難訓練等での事前準備及び指導の結果であると考え。 ・課題であった「4 職務上（報告・連絡・相談・確認）を行っている」は、C・D評価が0%となり、組織運営上、この項目については非常に重要であるためA・B評価100%目指していた。職員会議や終礼での周知、日常的にコミュニケーションを図った成果である。 <p>○学校運営に関わる保護者アンケートの結果は、概ね昨年度と同様でA・B評価の数値が高くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」はA・B評価で92.5%となり、高い評価となった。子どもたちが安心して学校に登校していることがわかる。 ・「4 学校日より、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」はA・B評価で88.5%となり、今年度ホームページについては、週に一回（学年で分担）の更新を目標として、全校体制で作成にあたった。学校理解につながっていると考え。 ・「6 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」のA・B評価は99.4%であり、昨年度の98.3%を上回った。昨年度コロナも5類になり、今年度は
------	--

様々な行事に制限がなくなったことで、安心して来校できている。

- ・「8 学校は、熱心に授業に取り組んでいると思う」のA B評価は、91.7%であり、今年度も先生方の普段のがんばりが保護者に伝わっている。
- ・「10 相談できる先生がいますか。」のA評価は76%であり、昨年度の78%を若干下回った。否定的回答の割合が24.1%であり、改善を必要とする。また、相関関係でみると児童と保護者にずれがある。



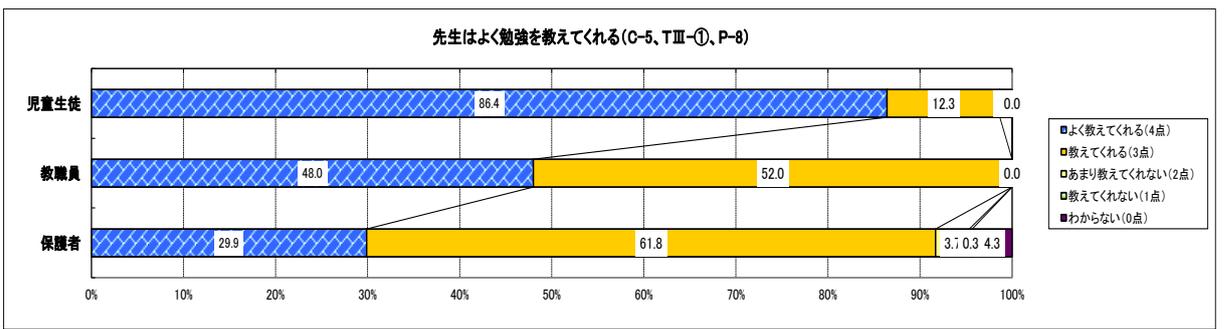
改善策

- ・職務上の連絡等については、今後も周知徹底して行っていくようにする。そのため組織対応が必要な場合には、報連相は文書（記録を含む）で行い、共通確認を徹底する。その上で窓口を一本化して職員によって伝える内容に違いがないようにしていく。
- ・教職員に求められる業務量が限界を超えているため、今後も効率化を図っていかねばならない。そのために学校DXの視点に立って事務的な内容をデジタル化していくことが必要で、教職員の働き方への変革を継続していく必要がある。
- ・「10 相談できる先生がいますか。」の改善策としては、より一層児童理解を深め、個々の児童との対話の時間を増やしていくことと考える。また、積極的に保護者とも連携を密にして信頼関係を構築する。
- ・本年度は、教務、各学年や委員会でホームページの更新を週に一度行い、児童の学習や行事、委員会活動の様子を画像で紹介する回数を増やした。学校や学年、学級のお便りも精力的に出した。そのためA B評価が高くなったが、C D評価の割合も少なからず示しているのが現状であるので、引き続き学年部会等でどんなことをおたよりやホームページで紹介してほしいのか要望を聞く機会を設けたり、文書等にQRコードやURLなどを添付して、手軽にホームページにアクセスできるようにするなど、工夫を凝らしていきたい。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- 自己評価では、7設問中5設問でA B評価が100%となっている。
- ・「4 ICTを効果的に活用した授業を行っている。」では、昨年度C D評価が3.8%となっていたのが、今年度も同様な数値で4.2%であった。依然A B評価が高くなっている。今年度は甲斐市のICT教育推進事業の研究指定を受けたこともあり、職員のICT活用への意識及び活用状況は高い状態である。ただ「効果的に使う」とは、これまでの授業実践との最適な組み合わせを表すことから、タブレットを使えばよいのではなく、これまでの実践による教育効果をタブレットでより高めることはできているかということになる。今後も質の高い「ICTの効果的な活用」を目標に取り組んでいく必要がある。
- 保護者アンケートでは、「9 お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。」のA B評価が81.9%で、昨年度と89.1%より数値が下がった結果となっている。
- 児童アンケートでは、「4 学校の授業は楽しいですか。」のA B評価が93.4%で、昨年度の95.3%と同様の結果となっている。その一方でC D評価が6.6%（20名）いることを重視しなければならない。
- ・児童アンケート「5 先生はよく勉強を教えてくれるか。」はA B評価が98.7%となったが、教職員、保護者との意識のずれがある。



【設問4】「学校は楽しいですか。」

【設問5】「先生はよく勉強を教えてくれるか。」

甲斐市全体：竜王南小

A 42.8% ⇔ 57.5%
 B 43.6% ⇔ 35.9%
 C 10.0% ⇔ 4.3%
 D 3.6% ⇔ 2.3%

甲斐市全体：竜王南小

A 77.1% ⇔ 86.4%
 B 20.8% ⇔ 12.3%
 C 1.6% ⇔ 1.3%
 D 0.5% ⇔ 0.0%

- ・児童アンケート「6 国語の授業内容はわかりますか。」は、AB評価が95.0%、CD評価が5.0% (15名) となった。また、「7 算数の授業内容はわかりますか。」は、AB評価が94.4%、CD評価が5.7% (17名) となった。甲斐市全体と比べても、AB評価は高い数値となっている。

国語	算数
甲斐市全体：竜王南小	甲斐市全体：竜王南小
A 52.0% ⇔ 60.3%	A 53.9% ⇔ 62.9%
B 40.5% ⇔ 34.7%	B 36.0% ⇔ 31.5%
C 6.2% ⇔ 4.3%	C 8.2% ⇔ 5.0%
D 1.4% ⇔ 0.7%	D 1.9% ⇔ 0.7%

- ・「9 授業でわからないことを先生に聞いているか。」は、AB評価が82.6%だが、A評価が50.0%となっており、半数の児童が実践できている。校内研究会では対話の価値を重視した研究を進めていることから、授業者と児童の信頼関係が深まっていることと授業への意欲が高まっていることが高水準で結果として表れている。学習内容の理解を深めていくにはとても重要な項目であるので、今後はCD評価の児童へのアプローチが必要となる。

改善策

- ・主体的・対話的で深い学びへの授業改善が求められている中、個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けて、今年度も校内研究を中心に共通認識を持って取り組んできている。また、管理職による教職員同士の学び合い、授業観察も進めている。児童アンケートの結果が、肯定的評価が高いことは我々にとって大きな成果であり、これを励みにして今後も授業改善に努めたい。
- ・学級担任が、担当する学年が変わってもタブレットを活用できるように、今後も研修や学び合いを進めていく。

IV 生徒指導について (児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

○生徒指導についての自己評価は、すべての設問でA評価の100%となった。

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「4 キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている。」では、A回答の割合が26.1%と、他の設問に比べて低くなっている。またキャリア教育の関連として、前述した「夢や希望を持っているか」の項目を昨年度課題として挙げ、今年度克服に向けて取り組んでいるが、他の項目に比べて伸び悩んでいる。小学校のキャリア教育は基盤形成の時期であり、小学校低学年では、学校生活に慣れる・身の回りの事象への関心・自分の好きなことを見つけて活動すること、中学年では友達と協力して深める・自分の持ち味を發揮し、役割を自覚すること、高学年では役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得すること・集団の中で自己を生かす・自らの夢や希望をふくらませることであり、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力の育成にあることを、研修を通して理解を深めていき実践につなげていきたい。 ○規範意識の指導については次のグラフのようになっている。A回答において児童と保護者に大きな開きが見られる。保護者には、「わからない」との回答も一定数あるので、学校での指導のようすが伝わっていないことも考えられる。学年・学級便りや学年総会等の場で生徒指導理解を図っていく必要がある。 <div data-bbox="228 698 1441 958" data-label="Figure"> <p style="text-align: center;">規範意識の高揚～きまりや約束を守るように指導している(C-12・13、TIV-③、P-7)</p> <table border="1"> <caption>規範意識の高揚～きまりや約束を守るように指導している(C-12・13、TIV-③、P-7)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく指導している(4点)</th> <th>指導している(3点)</th> <th>あまり指導していない(2点)</th> <th>指導していない(1点)</th> <th>わからない(0点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童生徒</td> <td>65.2</td> <td>32.4</td> <td>2.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>54.8</td> <td>45.2</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>23.9</td> <td>63.1</td> <td>5.0</td> <td>0.0</td> <td>8.0</td> </tr> </tbody> </table> </div>	対象	よく指導している(4点)	指導している(3点)	あまり指導していない(2点)	指導していない(1点)	わからない(0点)	児童生徒	65.2	32.4	2.0	0.0	0.0	教職員	54.8	45.2	0.0	0.0	0.0	保護者	23.9	63.1	5.0	0.0	8.0
対象	よく指導している(4点)	指導している(3点)	あまり指導していない(2点)	指導していない(1点)	わからない(0点)																				
児童生徒	65.2	32.4	2.0	0.0	0.0																				
教職員	54.8	45.2	0.0	0.0	0.0																				
保護者	23.9	63.1	5.0	0.0	8.0																				
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導提要在改訂され、生徒指導の定義が、「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」となった。生徒指導という、今までの認識では「問題行動があった時の対応」のようにとらえがちだが、「させる指導」から「支える指導」となり、特に、「発達支持的生徒指導」として児童生徒の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えるように働きかけること」が求められている。すでに様々な場面において「児童が自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」を行ってきているが、全職員が生徒指導としての認識も持って取り組む。 ・今後も学級経営を充実させてお互いに認め合える雰囲気をつくったり、校内研究の「ハートフルファイル」を通して自己有用感や自己肯定感を高める取組を継続していきたい。 ・生徒指導上の困難な課題は、早期対応を念頭に組織対応で行う。そのための報連相を徹底する。 																								
V 地域との連携について																									
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価6設問で、4つがA B評価100%だった。 ・「1 教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」で89.6%のA B評価となっている。来年度よりコミュニティー・スクールの土台づくりを始めることから、保護者、地域の方々や行政の方々などとの連携が一層活発になることを期待している。今年度は、ゲストティーチャー等の活用が各学年で行われ、その充実度が高い数値になっていると考える。 ・「3 たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」は、昨年と同様に自己評価がA B評価で100%となっている。ホームページも週に一回更新するようにしたことも理由として挙げられる。しかし保護者アンケートの結果ではA B評価が88.5%、C D評価が8.9%（わからない2.6%）となり、認識にやや違いがある。 ○保護者アンケート「1 1 P T A活動に参加していますか。」の肯定的評価が69.7%と昨年とほぼ同様の結果となっている。評価に対しては温度差がある。 																								
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりには、保護者や地域の理解が必要になる。そのためには、今あるコンテンツを最大限に發揮し、さらなる学校からの情報発信の工夫を考えていく。 ・P T A役員になる前は活動に消極的だったが、活動を通じてP T A活動のよさを理解できた方もいる。来年度は、創立50周年を迎える年でもあり、P T Aとの連携も密になってくる。今 																								

後も保護者に負担にならない範囲でより充実した活動をつくっていきたい。

VI 学校の特色に関して

達成状況 ○学校の特色の4設問すべてでA B評価が100%になった。

- ・「1 児童会行事に進んで取り組むよう指導に努めているか。」は、全教職員が児童会活動の異年齢集団との関わりという意義を共有し、価値ある活動として位置づけて活動している結果と考える。
- ・「2 教室環境づくりに努める」「3 児童が自分の考えを発表できる指導」「4 朝読書・朝学習の充実」については、校内研究「対話により考えを広げ深める授業改善」とも関連して、今年度も学校全体で組織的に指導をしてきている成果が出ているととらえる。

改善策

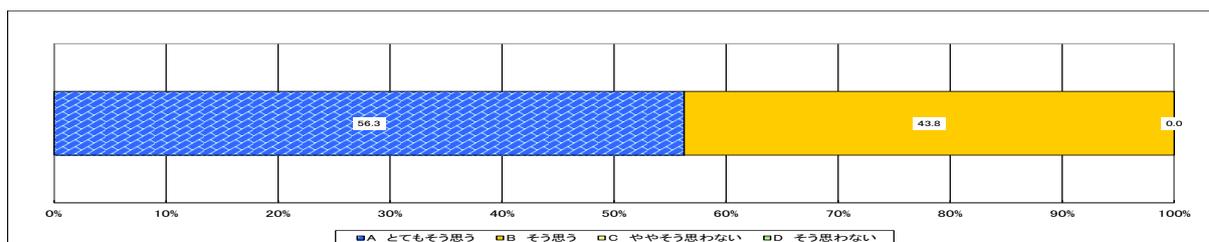
- ・児童会活動は異年齢集団として児童の縦のつながりが深まるとともに、6年生のリーダー性を高め、全児童の社会性が身についていくので、児童会執行部の企画に対して、教職員も理解し目的をもって取組を進めていきたい。今後は、児童会担当や6年生に大きな負担とならないよう、無理なく取り組める体制づくりを進めていきたい。
- ・今後も竜王南小の学校教育目標の達成を目指し、組織的に取り組んでいく。学級担任の意識が継続できるように、職場において対話を重視し、他学年、他学級の取り組みの様子を知ること、互いに刺激し合える機会をもつ。

VII 創甲斐教育について

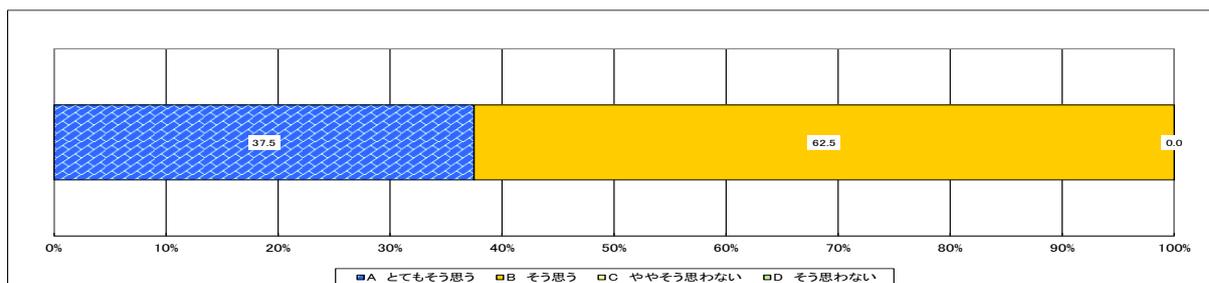
達成状況 ○創甲斐教育の3設問すべてでA B評価が100%になった。

- ・「1 基本的言語事項の習得」「2 自己を振り返り表現できる」については、学習振り返り(学習感想)を児童が記述する指導や各学級で日記等を書かせるなど、書くことを通しての言語活動を活発に行っていることが要因だと考える。
- ・「3 外遊びや縦割り班活動に進んで取り組む」では、特に外遊びで、中休みや昼休みに児童と一緒に遊ぶ教職員が何人もいることはとても良いことある。遊びの中で児童の世界観や実態を知ることによって児童理解と相互の信頼関係を深めていくことにつながる。

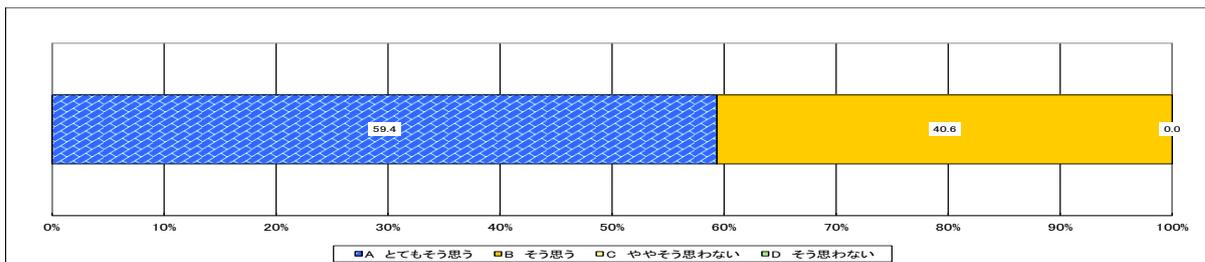
「1 基本的言語事項の習得」



「2 自己を振り返り表現できる」



「3 外遊びや縦割り班活動に進んで取り組む」



改善策

- ・今年度も授業の振り返り（学習感想）を書くことや語彙を増やす学習，日記等のひとまとまりの文章を書く取り組みを各学級で継続して行っている。振り返って書くことで経験・学びを頭の中で整理し再認識するため，思考力や認識力が身についていく。今後も継続して取り組んでいく。
- ・休み時間等には保護者に向けての連絡帳の記入や欠席児童への対応，授業準備，学級事務もしなくてはならない現状があるが，外遊びなどの活動も児童の実態把握や信頼関係の構築の時間ととらえ，今後も継続していきたい。

3 まとめ

〈成果〉

- ・教職員の自己評価では，すべての項目において，肯定的評価（A・B）が高く，全体的に達成できている。学校長の示す学校経営方針の下に，全教職員が共通理解をもって学校教育目標達成に向かっていくことが今年度も確認できた。また，児童・保護者アンケートにもその成果が反映され，特に児童アンケートについては，今年度も全体的にA評価の割合が高くなっており，項目に対する質の向上が見られる。家庭での理解と協力をいただいていることが確認できた。
- ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善については，校内研究を柱として取り組みの成果が表れている。また，おたよりやホームページの充実も引き続き進めていきたい。

〈課題〉

- ・今年度の本校の課題であった「朝食の摂取率」については，昨年度は上昇をしたが，再び低下した結果となった。児童アンケートではCD評価が9.8%（29名），保護者アンケートではCD評価が7.0%（21人）という結果であった。家庭によって様々な理由があると思うが，児童の健やかな成長を踏まえた望ましい生活習慣の確立や食育の観点からも，双方100%を目指して今後も取り組んでいく必要がある。
- ・児童アンケートでは，全体的に甲斐市全体と比べてもAB評価が高い中，昨年度も課題として挙げた「夢や希望を持っているか」の項目でCD評価が14%（42人）を示した。キャリア教育を中心に，児童が自分の生き方を主体的にとらえ，希望をもって生活できる手立てを考えていきたい。